

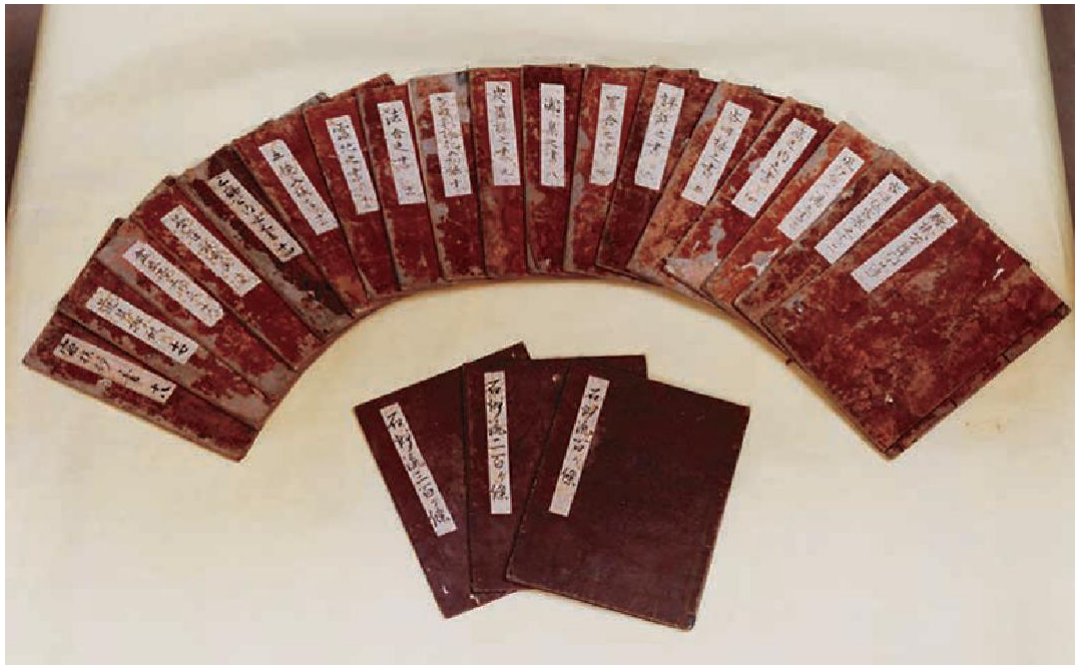
仙台藩の正式な茶道石州流清水派について

仙台藩茶道石州流清水派宗家十一世

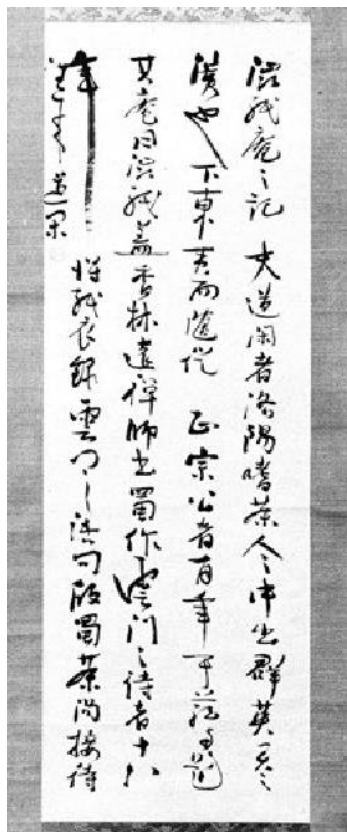
仙台藩志会副会長 東北大学名誉教授

大泉道鑑

仙台藩祖伊達政宗公は、藩の政治的・経済的基盤を確立しただけでなく、当時の最先端の桃山文化を導入し、高度な「伊達文化」を生み出した。政宗公は茶道の知識・理解が人並み以上に深く、当時京都の有名な茶人で織部流の祖古田織部の高弟一世清水道閑を破格の待遇で仙台藩茶道頭に^{しょうへい}招聘した。一世道閑は、名は宗怡といい、渋紙庵と号した。二代藩主伊達忠宗公は、二世清水動閑（名は紹之、伝習庵と号す）を石州流の祖で、四代将軍徳川家綱の茶道指南役を命じられた片桐石見^{いわみのかみさだまさ}守貞昌（石州、大和國小泉の大名）のもとへ、13年間も永きにわたり弟子入りさせて茶道の修行を積ませた。二世動閑は、石州が徳川将軍家の茶道の規格を定めた『石州流三百箇條』の註解書『清水動閑註解石州流三百箇條』（三卷）及びこれと関連の深い『動閑茶湯書』（十八冊）（図1）の著者として有名である。動閑没後、天下に数奇大名として有名な四代藩主伊達綱村公は、その後継者には二世動閑の嫡子清水快閑ではなく、一門で最も優れていた馬場道斎（後の三世清水道竿）を指名した。三世道竿は、綱村公の茶道指南役となり、上に述べた二世道竿の茶湯書を基盤にして、さらに創意工夫した石州流清水派（当流）を藩内に確立させると共に、全国各藩にも当流を広めた（図2）。そのなかで最も注目されるのは、徳川幕府の茶道方で重要な役割を果たす数奇屋頭の谷村三育などの茶道方に仕えていた茶人に茶湯伝授を行っており、徳川家の茶道にも大きな



『清水動閑註解石州流三百箇條』三卷及び『動閑茶湯書』十八冊



『洪紙庵之記』二世清水動閑筆



『片桐石見守貞昌宗閑居士像』妙閑子
(老中松平周防康福) 自画賛

図1 「三種の神器」の役割を果たしてきた当流の「三種の文献」十一世大泉道鑑蔵

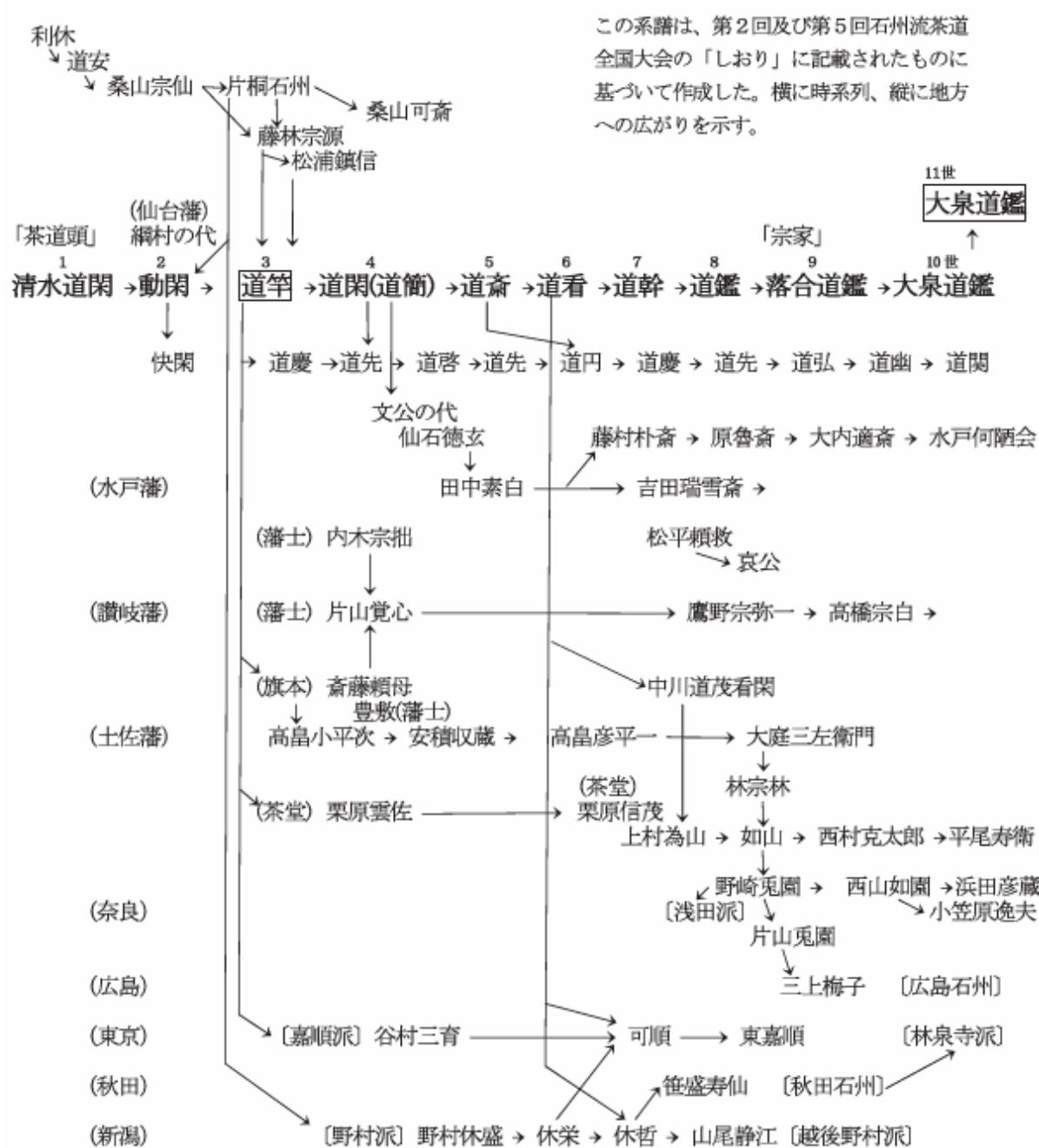


図2 石州流清水派の系譜

影響を与えていた点である。このような三世道竿の偉大な功績から、「石州流清水派の祖」と称されている。

ここで、当流の二つの大きな特徴を述べたい。一つ目の特徴は、当流の「聖典」とされてきた二世動閑の著書、動閑筆『渋紙庵之記』（掛軸）及び老中松平周防守^{やすよし}康福（妙関子）自画賛『片桐石見守貞昌宗関居士像』（掛軸）の三つの文献は、歴代の茶道頭・宗家を経て当代十一世大泉道鑑まで代々引き継がれてきたことである（図1）。この「三種の文献」は、当流を正しく継承した^{あかし}証となるもので、正に「三種の神器」の役目を果たしてきたのである。もうひとつは、当流には芸術的に完成度が最も高いとされる『極真の手数（手前）』があり、これを目にすることができる者は藩主あるいは天皇家（勅使）に限られ、また当流の後継者のみに伝授されるものである。上に述べた二つの仕組によって、当流が今日に至るまで藩政時代のまま正しく継承され堅く守られて、貴重な伊達文化遺産として残った。

ところで、筆者の母の故十世大泉道鑑は当流の聖典の役割を果たしてきた茶湯書『清水動閑註解石州流三百箇條』及び『動閑茶湯書』の解読研究、更に仙台藩の茶道史の解明研究をライフワークに定めた。この目的を達成するために必要な茶湯書だけではなく、それと関連の深い^{ぼうだい}膨大な古文書や資料の解読研究に十年近くの長い年月をかけて、『清水動閑註解石州流三百箇條付仙台藩茶道』と名付けた一冊の本にまとめ、丸善出版センターから出版した（図3-1）。このような十世道鑑の並々ならぬ努力によって、仙台藩の茶道の真髄と歴史の詳細を初めて明らかにすることに成功したことが、河北新報だけでなく全国主要新聞にも紹介された。また十世道鑑は、これらの功

績が高く評価され、仙台市・仙台市健康都市連絡協議会から表彰された。さらに最近では、この十世道鑑の著書に加え、当流のこの上なく優美な口伝の手前を後世に末永くしかも正しく伝えるためにそれを約 15 年かけて原稿に書き溜め、ようやく編集・出版に漕ぎ付けた数冊の「教本」(図 3 - 2) も郷土史研究家古田義弘先生の目にとまり、十世道鑑が『仙台領に生きる郷土の偉人傳 III』(図 3 - 3) に「石州流清水派の中興の祖」として取り上げられた。なお、この古田先生の著書は、「仙台市の書店で最も売れた本」の週間ランキングの首位を占めた(令和 4 年 2 月 27 日付河北新報)。

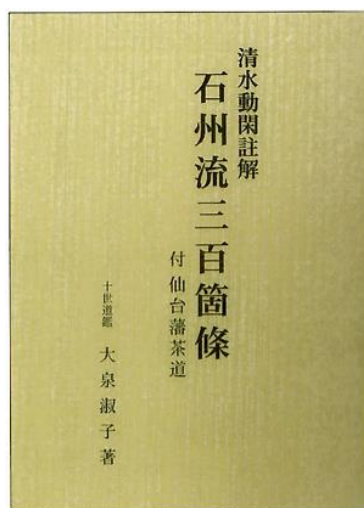


図 3 - 1
十世道鑑の著書
『清水動閑註解石州流
三百箇條付仙台藩茶道』

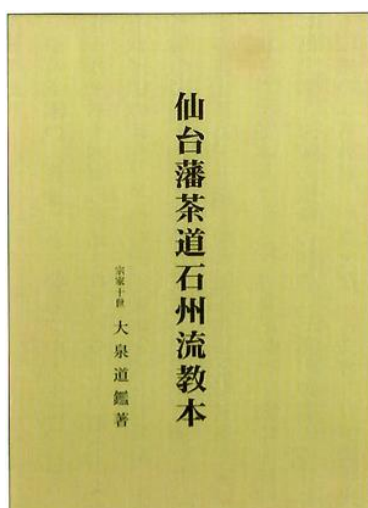


図 3 - 2
十世道鑑の著書
最初に出版された教本
『仙台藩茶道石州流教本』

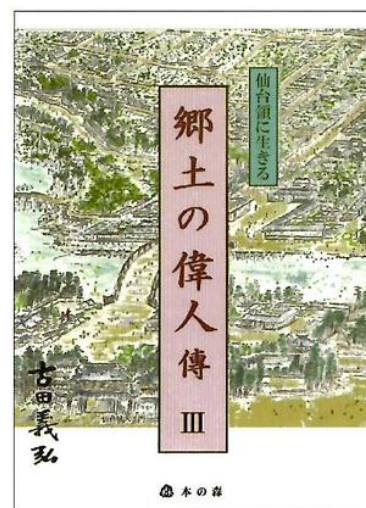


図 3 - 3
古田義弘先生の著書
『仙台領に生きる郷土
の偉人傳 III』

追記

1. この本文と関連する石州流清水派の歴史と活動の詳細は、
当流のホームページをこちらからご覧ください。
2. 吉田義弘著『仙台領に生きる郷土の偉人傳 III』の発行所は、本の森。



〒984-0051 仙台市若林区新寺一丁目 5-26-305

TEL&FAX : 022-293-1303 E-mail : forest1526@nifty.com